沖縄県立教育センター　研修報告集録　第30集　1－6　2001年9月

＜国語＞

「話すこと・聞くこと」の力を育てる学習指導の工夫
── 年間指導計画の作成と活用を通して──

嘉手納町立屋良小学校教諭　高　島　佐　代　子

Ⅰ　テーマ設定の理由

新学習指導要領の国語科の目標に「伝え合う力を高める」という文言が加わった。「伝え合う力」とは人間と人間との関係の中で，互いの立場や考えを尊重しながら，言語を通して適切に表現したり理解したりする力である。これは，今後の情報社会に必要な力であり，「話すこと・聞くこと」の指導は重要課題であると受け止めている。

本学級を考えてみると，友達に話題をうまく伝えることができなかったり，家に友達が来てもそれぞれがゲームをして遊んだりして，ほとんど会話をしないという児童もいた。少子化が進み，共働きの親も増え，家族間でも会話が少なくなり「話す」という言語環境は，良いとはいえない。

また，「聞くこと」がしっかりできない児童が，増えてきている現状もある。授業中，教師や友達の発表を最後まで聞くことができず，おしゃべりや手いたずらをしている児童がいる。このような児童は，大切なことを聞き落としてしまうため，指示されたことができず，主体的な学習活動ができない状況にある。発達心理学からみると，児童前期においては情操がまだ十分発達せず，情緒も十分に安定していないため，それが落ち着きのない行動となってあらわれるという。しかし「話を聞く」ということは学習の基本でもあるので，聞く態度を育てる必要がある。

そこで，「話すこと・聞くこと」の年間を見通した計画を作成し，継続的な指導をすることにより，「話す力」「聞く力」を育てることができるのではないかと考え，次のような仮説を設定した。

＜研究仮説＞

年間指導計画を作成し，音声言語活動の場を設け，継続的に指導すれば「話すこと・聞くこと」の力が育つであろう。

Ⅱ　研究内容

1 「話すこと・聞くこと」の指導

(1) 話すこと

話す力を育てるための指導を，「話し方」「話す内容」「話す態度」の三つの視点から考えてみた。

第一に「話し方」としては，「正しい発音・発声で話すこと」である。これは，ふだんの会話や音読・言葉遊び等を通して指導することができる。また，意見を述べる時や質問をする時などは「場に応じた声の大きさで話すこと」や「公私の区別をつけて話すこと」の指導も大切である。

第二に「話す内容」としては，経験したこと，空想したこと，自分の考えたこと等，知らせたいことをスピーチしたり，問いに対して応答したり，賛成・反対の意見を述べたりすることがあげられる。また，インタビューを通して質問のしかたを指導することができる。

第三に「話す態度」としては，聞き手に十分にわかってもらうような話し方をすることである。伝えたいことが十分に伝わるように，相手を見て話すことや話すときの表情にも気をつけさせる。また，明るく返事をする事や気持ちの良いあいさつをする等，聞き手に不快な思いをさせないような指導も大切である。

(2) 聞くこと

聞く力を育てるためには「技能としての聞き方」と「聞く態度」の指導が必要である。技能としての聞き方としては「１回で聞き取る」「聞きながら要点・要件をとらえたり，メモをとったりする」ことがあげられる。知らせたいことは何かという観点で，事柄の順序を意識しながら大事なことを聞き取ることができるように指導することが大切である。聞く態度としては，「相手を見て聞く」「一生懸命注意して聞く」「うなずきながら聞く」「最後まで聞く」ことである。これは，話し手に対する配慮でもあり，話し手の立場になって聞くことは，思いやりの心を育てることにもつながってくる。また，自分の考えに固執しないで聞くことができるような柔軟な姿勢も求められてくる。

(3) 話し合うこと

「話し合うこと」の力を育てるためには，まず安心して話せる学級の雰囲気を作ることである。普段

から「話しやすい」「言いたいことが気軽に言える」学級経営に心がけ児童と児童，児童と教師の良い関係を築き上げながら，「話すこと・聞くこと」の活動が行われるようにすることが大切である。

また，話したり聞いたりする言語活動は，児童にとって具体的な相手が必要である。目前に具体的な相手がいることによって，活動への意欲がより高まる。言語活動を活発にするために，「相手に応じて」「目的に応じて」話したり聞いたりすることができるような学習形態の工夫も必要になってくる。言語活動例として，「ディベート」や「ディスカッション」などがあげられる。「ディベート」や「ディスカッション」は，あるテーマに基づいた自分の考えを事前にまとめておくことで，自信を持って話し合いに参加し，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

2 「話すこと･聞くこと」の年間指導計画（第二学年）

「話すこと・聞くこと」の年間指導計画を「国語の時間」「朝の活動の時間」を使っての両面から作成することにした。

(1) 国語の時間における年間指導計画（30 時間）

「話すこと・聞くこと」の力を育てるためには，年間を通した計画を立て，指導を継続し，必然的に学習できる場を設定することが大切である(表１)。

「話すこと・聞くこと」の指導は第１学年から４学年までは年間 30 単位時間程度が配当されている。国語科の指導要領では「音声言語のための教材を開発したり活用したりするなどして指導の効果を高めるように工夫すること」とある。第二学年としての目標である「相手にわかるように話すこと」「大事なことを落とさないで聞くこと」「話題に沿って話し合うこと」が具現化されるように指導計画の作成を試みた。

また，教科書教材をとりあげるだけでなく，学校生活の中でも生かせるように「あいさつ」や「発表のしかた」「インタビューのしかた」など，いろいろな場面から「話す・聞く」活動がおこなわれるようにした。

<教科書教材から>……15 時間

（平成 14 年度版光村図書）

☆ともこさんは　どこかな（５時間）

☆あったらいいな，こんなもの（５時間）

☆一年生へのプレゼント（５時間）

<音声言語のための教材開発の試み>……15 時間

めざせ！話し上手・聞き上手名人

◎二年生になってがんばること（１時間）

◎あいさつしたら気もちがいいね（１時間）

◎先生に話そう（２時間）

◎発表の仕方（１時間）

◎インタビューにチャレンジ（５時間）

◎教室ディベートをしよう（５時間）

表1 「話すこと･聞くこと」の年間指導計画　30 時間

	「話すこと・聞くこと」の教材と内容 ☆は教科書教材　◎は教材開発
一学期　十時間	◎二年生になってがんばること（１時間） 《話す》二年生になってがんばりたいことを具体的にわかりやすく話す。 （一つめは，二つめは…） 《聞く》聞き方の約束をもとに聞く 聞き方の約束　あいうえお 「**あ**いてを見て聞く」「**い**っしょうけんめい聞く」「**う**なずきながら聞く」「**え**がおで聞く」「**お**しまいまで聞く」 ◎あいさつしたら気持ちがいいね（１時間） 《話す》気持ちよいあいさつができるようにする。 （笑顔で，元気な声で） 《話す・聞く》おたがいに気持ちのよいあいさつができるようにする。 ◎先生に話そう（２時間） 《話す》先生に伝えたいことをわかりやすく話す。 《話す》職員室や保健室に行って，伝えたいことをわかりやすく話す。 （職員室で先生に用があるときや，保健室で気分が悪いことを伝えたい時など） ◎発表のしかた（１時間） 《話す》学習に使う言葉を使って練習する。 例　わたしは…だと思います。 なぜかというと～だからです。 どうして～なのですか。 《聞く》話し手の意図を考えながら聞く。 質問をするために聞く。 **☆ともこさんはどこかな（5 時間）** 《話す》大事なことをおさえて話す。 《聞く》大事なことを落とさないように聞く。
二学期　十時間	**☆あったらいいな，こんなもの（5 時間）** 《話す》考えたことを，話す順序に気をつけてクラスの友達に伝える。 《聞く》発表する人の良いところをみつけながら聞く。 ◎インタビューにチャレンジ（５時間） 《話す》調べることを決め，質問したいことをはっきりさせて，質問する。 《聞く》相手の話をしっかり聞いて，大切なことを書きとめる。 《話す》インタビューしてわかったことをいろいろな方法でまとめ，発表する。 《聞く》調べたことの発表会で，発表者の話をしっかり聞く。 聞きたいことを質問する。

三学期　十時間	**☆一年生へのプレゼント（5時間）** 一人ひとりが一年生へのプレゼントを考え，話し合う。 《話す》自分の考えを発表する。 《聞く》友達はどんなことを考えているのかよく聞く。 《話し合う》自分の考えや，友達の考えを大切にしながら，話し合う。 ◎ディベートをしよう。（5時間） ディベートのすすめ方について知り，論題を決め，ディベートをする。あらかじめ，自分の意見や考えはワークシートに書きこんでおく。 《話す》論題の「賛成」「反対」の立場でその理由を発言する。 《聞く》話し手の意図を考えながら聞く。 質問したいことを考えながら聞く。 《話し合う》話題からそれないように話し合う 話題に沿って話し合う。

(2) 朝の活動の時間を使った指導の工夫

「話すこと・聞くこと」の力は国語の時間の30時間だけで育てることはできない。日頃の学級経営の中で，また他教科との関わりの中でも「話すこと・聞くこと」の活動が十分に行われるように配慮したいと考える。そこで朝の活動の時間を利用し，「話すこと・聞くこと」の活動が継続的に行われるようにした（表2）。また，「話すこと・聞くこと」の活動が必然的に行われるために以下のような手立てを考えてみた。

① 「話すこと・聞くこと」の活動にゲームを取り入れる

「話す・聞く」活動にゲームをとりいれることを重視したいと考えている。

児童はゲームが好きである。ゲームに勝ちたいというこだわりが，ゲームをする者の意欲をかきたてる。勝ったときの喜びや負けたときの悔しさは，もう一度やりたい，挑戦したいという気持ちにさせ，学習の中にもゲームを取り入れると喜んで活動する。「音声言語指導のアイディア」（早坂五郎，1997）の中で，「ゲームを題材にすることにより，題材に魅力を感じ，学習に意欲をもち，もっと上手にできるようになろうと内発的動機付けとなり，このことが児童を学習の主体者にすることになる」と述べている。

「活動あって学習なし」の結果にならないように「事柄の順序を考えて話すこと」「はっきりした声で話すこと」「大事なことを落とさないで聞くこと」のねらいが達成できるようなゲームを，楽しくできるようにしたい。

② 朝の会のスピーチを工夫する

「何を」「どのように」話していいのかわからない児童がいる。そこで，「もし，ドラえもんがいたら」（表2）等のようにスピーチにテーマを与えたり，話すためのスキル的なワークシート等を準備したりして，自信をもって発表できるようにさせたいと考えている。

表2　朝の活動の時間を使った音声言語の指導

	朝の時間における言語活動の指導と内容
「話すこと・聞くこと」に関連するゲーム（例）	○絵かきゲーム 順序を表す言葉に気をつけて聞きながら，絵に描き表していくゲーム。問題を出す人は，相手が理解できるように詳しく話すようにする。この活動は、正確に聞くことや，分からないことは質問することにつながってくる。 ○私の家においで 話し手の説明を聞いて，聞き手は地図上の道をたどり，話し手の家を当てなければならない。話し手は、何人の聞き手をたどり着かせたかを競い合う。聞き手は，話をよく聞いて説明順路の通りに目的地に行くことを競い合う。 ○クイズに答えよう ・私は，だれでしょう。 ・この食べ物はなんでしょう。 ・この生き物はなんでしょう。 ・この人はだれでしょう。 ・これは何でしょう。 ヒントになる言葉を文章化し，問題を作り，発表する。聞く側は，ヒントをしっかり聞き，質問タイムの後，答えを推論する。 ○大きいですか，小さいですか 出題者は，答えを用意しておく。質問者「大きいですか，小さいですか」の形式でいろいろな質問をする。質問者と出題者のやりとりの後，収集した情報を総合して，答えを推論する。
スピーチのテーマ（例）	○好きなもの紹介します。 ○宝物を紹介します。 ○もし，ドラエモンがいたら。 ○きのうのできごとを話します。 ○お気に入りの本を紹介します。 ○大きくなったら～になりたいと思います。 ○家族を紹介します。 ○好きなテレビ番組を紹介します。 ○作品を紹介します。
その他	○口の体操 ○どんなお話だったかな？ （聞き取りチェックカード） ○明日の連絡（聞き取りメモ） ○クラスの詩集 クラスで詩を選び，音読した後，暗唱する。 ○言葉遊び

Ⅲ　指導の実際

１ 単元名　　名探偵は君だ！

２ 教材名　　ともこさんは　どこかな

３ 指導について

この単元は，「話すこと・聞くこと」の領域の年間指導計画に基づいて，設定されている。「話すこと・聞くこと」の力を育てる手立てとして，楽しく興味を持って学習できるように，教材にゲーム性を持たせ，「話さざるを得ない」「聞かざるを得ない」音声言語活動の場を工夫する。

＜話すことの工夫＞

⑴はっきりした発音で話すことができるようにするために，授業の導入で口の体操，舌の体操，詩の音読を取り入れ，声の出し方を練習する。

⑵相手に伝えたいことをよくわかるように話すことができるために，前もってワークシートに書かせ，自信を持って話すことができるようにする。

⑶最後まで話すことができるように，ワークシートの文を文末に気をつけてチェックし，練習させる。

⑷みんなに聞こえる声で話すことができるように「声のチャンネル」を掲示して意識付けさせる。

＜聞くことの工夫＞

⑴聞いたことの中で，何が大切かを聞き取ることができるようにする。

⑵「聞き方の約束」をもとに集中して話を聞くことができるようにする。

４ 単元の目標

○伝えたいことを，友だちによくわかるように具体的に話すことができる。

○大事なことを落とさずに話を聞くことができる。

○ゲームを楽しみながら，正確に話すことや聞くことの大切さを知ることができる。

５ 本時の指導

⑴ 目標

①問題を出す時に，人物の特徴がよくわかるように話すことができる。

②大事なこと（人物の特徴）を落とさないように聞くことができる。

⑵ 授業仮説

①「名探偵は君だ！」というゲームを通して，聞かざるを得ない場面を設定することにより，大事なことを落とさないで話を聞くことができるであろう。

②自分なりの考えをワークシートにまとめさせておくことにより，児童は自信を持って話すことができるであろう。

⑶ 展開

	学習活動	教師の支援	評価
導入 10分	1　前時までの復習をする。 ①口の体操で，音声の基本練習をし，「はきはき」を音読する。 ②**「話すとき」**の大切なことについて復習する。 ・みんなに聞こえる声で話す。 ・大事なことを落とさないように話す。 ③**「聞くとき」**の大切なことについて振り返り，「ともこさん」の特徴をとらえて探す。 ・大事なことをおとさないように聞く。 ・聞き方の約束をもとに聞く。 2　本時のめあてを確認する。 ・たくさんの友達が名探偵になれるように話そう。 ・名探偵になれるようにしっかり聞こう。	・口の体操 （アエイ，ウイア，レロレロ，オエオエ……等） ・正しい発音・発声で音読できるようにする。 ・これまでの学習を振り返りながら「話すとき」「聞くとき」の大切なことをしっかりおさえるようにする。 ・「話すとき」「聞くとき」の約束がゲームの中で生かせるようにする。 ・前時に書いたワークシートの文が，文末表現に気をつけて書いてあるかチェックしておく。	正しい発音で音読できたか。 「話し方」「聞き方」の約束をとらえているか。 めあてを確認できたか。
	3　**「名たんていはきみだ！」**のゲーム大会をする。 ①教師からゲームのルールや約束についての話を聞く。	・司会を児童にさせ，スムーズに進行できるように援助する。（シナリオを持たせておく） ・さし絵をもとに人物をみつけるゲームであること，話す人も聞く人も得点がつくことを伝える。	聞いている人がよくわかるように（特徴を具体的に）話しているか。

展開 25分	②司会の紹介で，問題を出す人は前に出て問題を言う。 ③「探して下さい」の合図と共に問題の人物を探す。 ④答えを確かめ合う。 ⑤自分の探した人物が正解だったときは、ワークシートに○をつける。 ⑥問題を出す人も，何人の正解者を出すことができたかチェックし黒板の表に書く。 ⑦まちがえた児童がいた場合，どうしてまちがえてしまったのか、その原因をみんなで考える。	・人物を探すことができたら，ワークシートに○をつけさせる。 ・話す人は，何人の友だちが人物を探すことができたか黒板の表に書く。 <話す人の約束> ①前時に書いたワークシートをもとに，人物の特徴を詳しくはっきりと話す。 ②声のチャンネル３の大きさの声で話す。 <聞く人の約束> ①大事な言葉を落とさないように聞く。 ②問題を最後まで聞いてから探す。 ③みつけたら、その人物の上におはじきを置く。	大事な言葉（人物の特徴）を聞き取ることができたか。
まとめ 10分	4　ゲーム終了後，自己評価をする。 5　本時の聞き上手名人（名探偵）・話し上手名人を発表する。 6　今日の授業を振り返り，楽しかったことやもっとがんばりたい事を発表し，本時の授業をまとめる。	・ワークシートの○の数を数えて書く。 ☆聞き上手名人（名探偵） （○の数が一番多い人） ☆話し上手名人 （正解者人数の一番多い人） ・聞き方・話し方がよくできていた児童を発表し賞賛する。	「話すとき」「聞くとき」の大事なことを，より意識することができたか。

6　授業の考察

(1) 授業仮説①について

大事なことを落とさないで話を聞くことができたかについては，30 名中 20 名の児童 67％が問題を全問正答することができた。1 問だけまちがえた児童は 7 名で 90％の児童が話をよく聞くことができた。自己評価では 30 名中 29 名が「大事なことをしっかり聞き取ることができた」と評価した。残り 1 名は，教師から見て日頃聞く態度がよくできている児童である。この児童は自分に対して厳しく評価していると考えられる。

以上のことから，聞かざるを得ない場面設定をすることにより児童は「大事なことを聞き落とさないようにする」ことができたといえる。

写真1　名探偵をめざしてがんばる子ども達

(2) 授業仮説②について

ワークシートを活用し，自分なりの考えを書かせておいたことにより，児童は自信をもって発表できたようである。ワークシートに書かせた文は，教師側でチェックし，文末表現のできていない文章等の手直しをした。児童は「緊張したけどうまく話すことができました。」「３の声（学級全体に話すときの声の大きさ）で話すことができました。」と感想を述べており，自信を持って話すことができたととらえることができる。

7　研究仮説の検証

「話すこと・聞くこと」の力を育てるためには，年間を通した継続的な指導が必要であるだろう，という研究仮説をふまえて以下の三つの視点から検証を行った。

(1) 年間指導計画を作成し活用したこと

新学習指導要領では「話すこと・聞くこと」の目標が 1 領域としてまとめられ，音声言語の教材の開発と活用について記されている。それをふまえることによって「話すこと・聞くこと」の指導内容が年間指導計画にはっきりと位置付けられ，計画的に指導することができた。これまで，「発表」や，「話し合いのしかた」「インタビューの仕方」等は，特に取り立てた指導は実施していなかった。しかし 30 時間という限られた時間を有効に使うために，「話すこと･聞くこと」の年間指導計画を作成したことで，指導内容が明確になり，見通しをもって指導することができた。

(2) 朝の活動の時間の工夫

朝の会を使って計画的・継続的に「話すこと・聞くこと」の活動を実施することにより，児童が学級全員の前で発表する機会が増えた。また，児童が発表しているときには「聞き方の約束」を守るということを決めたことで，友だちの発表をよく聞き，わからないことがあったら質問するという場面もよくみられるようになった。質問できるということは，話をよく聞い

ているということである。また，「絵かきゲーム」等「話すこと・聞くこと」に関連するゲームを取り入れたことにより，楽しく話したり，聞いたりする活動の場を与えることができた。「もう一度やってみたい」という児童の感想が多かったことから，ゲームをとりいれたことは，十分に児童の興味をひき，「話すこと・聞くこと」の活動を充実させることができたと考える。

(3)「話すこと・聞くこと」の力

① アンケート調査より

「話すことが上手と思うか」「聞くことが上手と思うか」についてアンケートをとり，５月と７月に調査したものを比較してみると次のような結果が得られた。

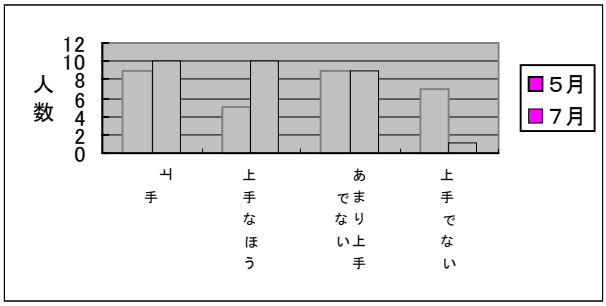

図1　話すことが上手だと思いますか。

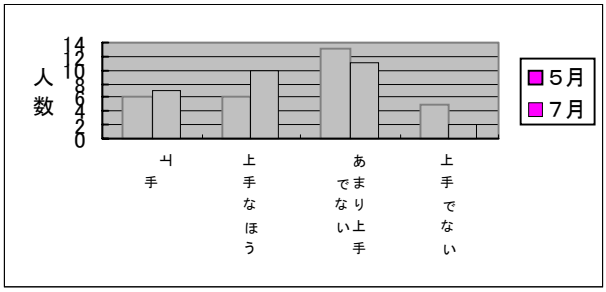

図2　話を聞くことが上手だと思いますか。

アンケートの結果から児童の「話し方」「聞き方」に変容がみられることがわかる。「話すことが上手か」という問いには５月の調査では，47％（14 名）が「上手」「上手なほう」と答えたが７月の調査では，６名増え 67％となり 20％の伸びがみられた。また「聞くことが上手か」という問いには５月の調査で 60％（18 名）が「あまり上手でない」「上手でない」と答えていたが，７月の調査では５名減で 44％になり「聞く態度がよくなった児童が増えた」ととらえることができる。「あまり上手でない」「上手でない」と答えた児童 13 名は，今後とも継続的な指導が必要である。

② 児童の感想より

○今度，問題を発表するときには大きな声で言えるようにがんばります。
○話すときに大事なことをきちんと話す事ができました。
○問題に答えられるように大事なことをしっかり聞きたいです。
○聞き上手になれるように，がんばります。
○今度は司会をしたいと思います。

児童の「聞き上手になれるようにがんばります。」「今度は司会をしたいと思います。」等の感想から，聞くことの大切さや楽しさを感じ，話すことの充実感を味わうことができたことがわかる。教師が常に「話すとき」「聞くとき」の約束を意識付けさせ，計画的・継続的に音声言語活動の場を提供することは，児童に次の活動へのめあてと意欲を持たせることができたと考える。

Ⅳ　まとめと今後の課題

「話すこと・聞くこと」の力を育てる学習指導の工夫として，年間指導計画を作成し計画的に指導を進めてきた。児童は，発音や発声に気をつけて声を出すことや「発表の仕方」「場に応じた話し方」などを身につけることができた。また，ゲームを通して「話したくなる」「聞きたくなる」場の設定を工夫したことにより，進んで発表し，大事なことをとらえて聞こうとする児童が増えた。さらに，朝の活動の時間を利用して学級全員の前で話したり聞いたりする機会を確保することができた。年間指導計画を作成し見通しを持って指導したことは，児童の「話す力」「聞く力」を育てる手段として確かな手ごたえがあった。

今後の課題としては，評価の仕方を工夫することである。具体的な評価規準を設定し，振り返りカードの活用の他，ビデオテープなどを利用し，どこが良かったか，どこを工夫すると良いかを話し合うなど，伝え合う力が高まるような評価のしかたについて継続的に研究をすすめていきたい。

＜主な参考文献＞

市毛勝雄編　2000　『「話し方・聞き方」新教材と授業開発』上巻　下巻　明治図書
早坂五郎　1995　『すぐ使える音声言語指導のアイディア』　東洋館出版社
本堂寛　1992　『話すこと　聞くことの指導』　東京書籍